



市長インタビュー

エコ・モビリティをすすめます

●エコ・モビリティという新しい考え方について、お聞かせください。

齋藤市長 京都議定書の発効により、地球温暖化対策の重要性が叫ばれています。エコ・モビリティとは、環境に配慮して個人の移動のあり方を見直すことです。このことは、本市における効果的な温暖化対策であると考えています。

このほか、エコ・モビリティには、高齢社会を控え、公共交通機関を利用しやすくなることで、マイカーを利用しない場合にも、市民の皆さんが移動にあたって不自由を感じないようにする、また、歩いたり、自転車に乗ったりすることが楽しいまちをつくるという意味を持っています。これらは、まちづくりの観点からも重要な考え方です。

●エコ・モビリティを、これからのようにすすめていかれるのでしょうか。

市長 地球温暖化に対応していくためには、市民一人ひとりの行動が大切です。そのためには、温暖化に関する問題の共有が必要だと考えています。広報とこざわやホームページ、出前講座等のあらゆる機会を通じて、エコ・モビリティについての情報提供に努めていきます。

また、6月は環境月間です。国連が6月5日を世界環境デーに定め、世界各国で、環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするための取り組みが行われています。本市でも、この環境月間中にさまざまな環境情報をお知らせする環境展示を市役所庁舎で開催します。ぜひお越しください。地球温暖化対策への、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。(環境展示期間：6月6日(月)・午後1時～10日(金)・午後3時/本号情報館9ページ参照)

図1 個人のクルマ(マイカー)利用の増加による影響

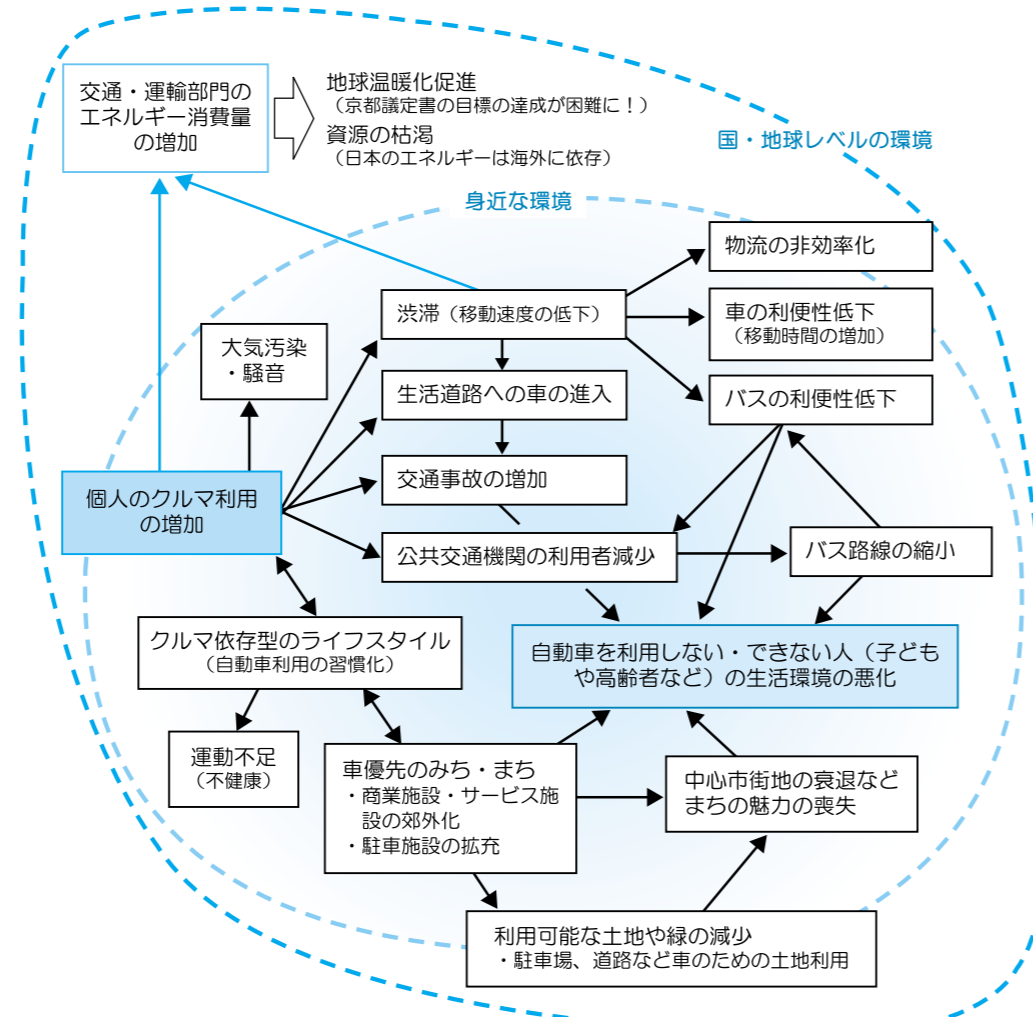


表1 マイカーの利用目的

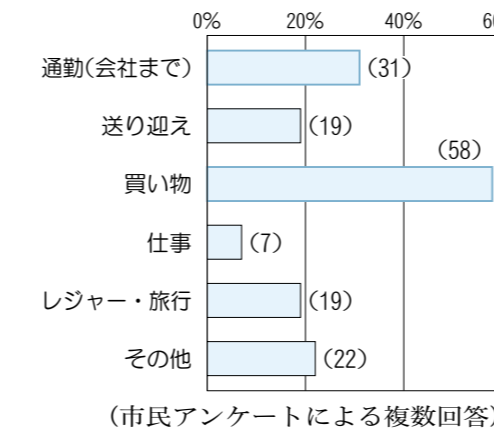
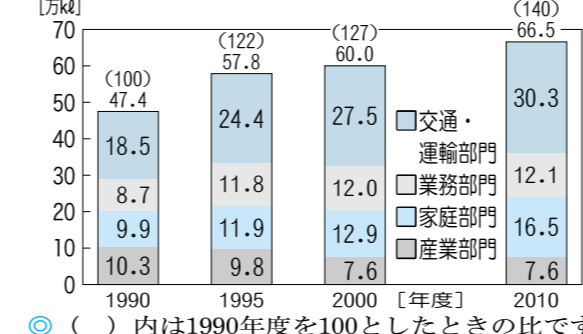


表2 所沢市の最終エネルギー消費量の推移



※1 京都議定書とは… 1997年12月に開催された、地球温暖化防止京都会議において、温室効果ガス排出の削減目標を定めたもの。

※2 エコ・モビリティとは… 環境にやさしい移動のあり方を意味する言葉で、過度のマイカー利用を見直し、バス・電車などの公共交通機関や自転車などを適切に利用すること。

※1 京都議定書の発効により、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの削減が、わが国に義務づけられました。温室効果ガスの約9割は、エネルギー消費から発生します。所沢市でエネルギー消費量が最も多いのは、マイカーを中心とする交通・運輸部門です。そこで、この部門の省エネをすすめるために、「エコ・モビリティのすすめ」(21世紀型のクルマの使い方)と題して、対応策をまとめました。今回は、その概要をお知らせします。「エコ・モビリティのすすめ」では、クルマに依存したライフスタイルの見直しを提案しています。

※お問い合わせ 環境総務課 TEL29998-9133 FAX29998-9364

地球温暖化防止のために過度のマイカー利用を見直しましょう

「21世紀型のクルマの使い方」

地域省エネルギービジョン 重点テーマ「交通・運輸部門」

皆さんは、買い物や通勤のために、どのような交通手段を利用していますか。マイカー、バス、電車、自転車、徒歩等、いろいろと考えられます。最近の傾向として、マイカーを利用する人が増えているようです(表1参照)。

マイカーの保有台数は年々増加し、中でも2000cc以上のクルマが特に増加しています。その結果、交通・運輸部門のエネルギー消費割合が最も高く、2000年度においては、市全体の消費量の約46%を占めています(表2参照)。

便利なマイカー。しかし、マイカーは便利な乗り物です。暗い夜道や雨の日でも、ドアからドアへ、どこへでも行くことができます。また、自分専用の空間を楽しむこともできます。

しかし、地域全体で考えると、そんな便利なマイカーが、地球温暖化や大気汚染の環境面のほか、幅広い分野に影響を及ぼしていることを、私たちは知っておく必要があります(表1参照)。

自転車問題や交通安全対策、身近な生活道路の整備等、交通・道路問題は市民の関心が高いテーマという調査結果があります。今後、高齢化がすすむことで、マイカーを運転できない人の増加が見込まれます。マイカーを利用しない人・できない人にとっても、好ましい生活環境をどうつくっていくかが大切な視点です。

人が歩ける 思いやりのまち

亀山恭子さん (中富南在住)

私が住んでいる地区は、車が通り抜けをしにくい構造になっていて、散歩をしている人がたくさんいます。あいさつをしたり、立ち話をしたり、ご近所とのコミュニケーションが活発です。このような地域でのつながりが、防犯の面にもよい効果があるようです。

地区内を移動するときは、車を使わずに、歩いたり、自転車に乗ったり、バスや電車で出かけよう!

楽しみながら省エネを

おひなな 大日方喜久雄さん (緑町在住)

省エネを無理なくすすめるためには、視点を変えて、楽しく取り組むことを考えましょう。

エコ運転を追い及し、自分の車の燃費の向上にチャレンジした話を新聞で見ました。給油するたびに燃費を計算するのが楽しかったそうです。また、実験によると、高速道路を走るのに時速80kmと120kmでは燃費が4割以上違うという話もあります。

エコ運転についてのいろいろな情報を集め、自分の工夫を加えて楽しみながら省エネしませんか。

表3 全国の平均的な家庭のCO₂排出量を100とした場合に、その対策を継続的に実施して、どれだけの削減ができるのか、およびその削減割合

対策例	削減割合
マイカーをやめて公共交通機関(バス・電車)を利用する	30%
ハイブリッド自動車(複数の動力源利用)に乗りかえる	18%
屋根に3kWの太陽光発電装置を取り付ける	18%
普通自動車から軽自動車(重量半分)に乗りかえる	10%
普通自動車から小型自動車(重量3分の2)に乗りかえる	7%
太陽温水器を取り付ける	7%
近所の人とクルマの共同所有(カーシェアリング)をする	6%
効率性が2倍のエアコンに買いかえる	3%
週2日往復8kmの車の運転を控える	3%
買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜などを選ぶ	1%
急発進・急加速・急ブレーキをやめる	0.4%
経済的な走行速度の維持(一般道路で時速40km程度)	0.4%
テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす	0.2%
自動車に不要な荷物を載せない	0.1%
大型の自動車に乗りかえる	△7%

環境省「環のくらし」を参考に作成

環境にやさしいクルマに乗りかえましょう

マイカーを買いかえるときに、軽自動車やハイブリッド車(複数の動力源利用)のような燃費のよいクルマや低公害車に乗りかえることは有効な対策です。また、ガソリン代の節約にもなります。

エコドライブを実践しましょう

省エネ型の運転をエコドライブといいますが、ガソリンの消費を減らし、環境にやさしく、経済的な運転方法です。エコドライブには次のものがあります。

- 無用なアイドリングをしない。
- 急発進、急加速、急ブレーキ、空ぶかしをしない。
- 経済速度で走行する。
- 不要な荷物を積まない。
- タイヤの空気圧を適正にする。

バスや電車を利用しましょう

1人の人を1km運ぶエネルギーは、クルマを100とすると、バスで30、電車を17程度です。バスや電車を17程度です。行楽の際のクルマの渋滞回避にもなります。行き先や目的地に応じた利用を考えてみましょう。

エネルギー消費量を把握して、かしこい省エネを

省エネを効果的にすすめるためには、どこで、どれくらい電気が消費されているのかを知ることが大切です。市では、目に見えない電気消費量を計ることができる計測機器、省エネナビ(右)、ワットアワーメーター(左)の貸し出しをしています。ぜひご利用ください。

大切なのは市民の行動

地球温暖化を防止するには、市民一人ひとりの行動が大切です。マイカーとのつきあい方を見直すには、ガソリンの消費量や燃費、コストなどの利用の実態を知ることが重要です。

全国の平均的な家庭において、クルマに乗るのをやめ、公共交通機関を利用することによって、温室効果ガスを3割程度減らすことができます。クルマ関係のほか、家庭での取り組みも大切です(表3参照)。

市では、今年度から「エコ・モビリティのすすめ」を、市民・事業者との協働によって推進していきます。市民や事業者の皆さんからのご提案やご相談などをお寄せください。また、出前講座を実施していますので、ご利用ください。

◎「エコ・モビリティのすすめ」の冊子は、市役所1階・市政情報センター、ライサイクルふれあい館で閲覧できます。概要版は、右記の場所、各公民館で配布しています。また、詳細は、市ホームページ(アドレスは表紙参照)でもご覧になれます。

